TCK11901049602.pdf (0 - 16 m) 1/2 ページ

ボーリング柱状図

	調														-1 2° 11	>, #NO	П	_												
	事業・工事名																							ボーリングNO.						
ボ	- IJ	ング	名	No.3 (3					調査位置													シートNO. 北 緯 36°24′44.0000″								
発	注	機「	関	栃木県宇	常宮土	木事	務所	河川	川砂防部					上期	間:	2008-01-29 ~ 2008-01-31							東紹	経 139°54′03.0000″						
調	查第	€ 者	名						主任技師					現 場 コ 代 理 人 鑑 定					アき				ボーリング責任者							
孔	. 🏻	標	高	55.82 m	角	角 上		0. 2	方 270 90 盤 鉛		が平 0° 用 機		試錐機						ハン・			ハンマ落下月		777121	'					
総掘進長			長	17.33 m	度	_ 		1	句 四 90 盤 鉛 面 取 配 90° 配 90°	\bigcup	.00°	機種	I)	ノジ	ン								ポン							
				1					1 100 1000 1																			$\overline{}$		
標	標	層	深	柱	土	色相相			記	層	孔内	\mathrew{\pi}	10cmごとの						λ	入 試 験					位置試験		料採		室 掘	掘
尺	高	厚	度	状	質		対	対		岩体区	水位	度		mご 隆回領		打擊回									試 験 名 および結果	深度	試料	採取	内	進
					X		密	稠		区分	(m)	152	0	10	20	数								ix.		150	番	方	試	月
				図	分	調	度	度	事		測定		1	1		貫入			Ν	I	値						号	法	験	日
(m)	(m)	(m)	(m)								月日	(m)	10	20	1 1	量 (cm)	0	10) 2	20 3	0 4	10 5	50	(m)		(m)				
-	55.52	0.30	0.30		表土(シル ト) (M)	黒褐褐褐		軟ら	耕作土,草木根混入 含水・粘性ともに中位である	+																				
- - -1	54.92	0.60	0.90		粘土 (CH) 粘土	TEJ		かい	0.8m付近より粘性大きい 含水量多く粘性やや大きい	$\frac{1}{2}$		1.15	1			1														-
					(CH)	褐灰		中位	下部は砂分多い			1.45	30			30	1 9													
-2	53.82	1.10	2.00		礫混じり			軟ら	粒径均一な細砂で粘土分が部分的	+	01/29 2.40	2.15				9_		\forall								2.00				-
					粗砂 (CS-G)	灰	緩	かい	に多い 5 ~ 10mmの円礫を点在する 3.3m付近から礫が多く混じる		2.40	2.45	4	4	1	30	9										3-1			
-3 :				•••••		褐	ίì					3.15		5	6	13	13	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\								3.00				-
-4	52.02	1.80	3.80	0.0.0.	砂礫				[4.50] 5~40mmの円・亜円礫主			3.45		5	0	30														-
-4 :					(GS)				(4.30) 3 40mmの) ・ 並行線主体 体 [5.20] 100~200mm(コア長 L=30~70mm)の玉石が点在			4.15	12	13	13	38	38				•									-
-5				0.0.0.0 0.0.0.0 0.0.0.0					[6.00]礫間は粒径不均一な砂で充填されている [6.60]粘土分が少量混じる			4.45				=0										5.00				_
				0.0.0.0					[7.30]5.7~6.0m間は礫分がやや少ない [8.00]全体に孔壁安定する			5.15	29	19	2_2	50 22	>50										3-2			
-6				0.0.0.0					[8.80]9.5~10.0m間は逸水ある [9.50]9.8m付近より礫の混入が少ない			6.15				42										6.00				-
												6.45	16	13	13	30	42													
-7 -7				0.0.0.0		福	密な					7.15	25	25_8		50 18	>50	+												01/29
				0.000								7.33																		-
-8												8.15	27	23_6		50 16	>50					_								-
- -9				0.0.0.0								0.01		17_		E0.														
-9 -												9.15	33	-6		50 16	>50					\rightarrow								
-10	45.82	6.20	10.00		粘土				含水・粘性ともに中位である			10.15				7														-
-10				====	(CH)	淡褐		中位	砂が少量混じる			10.45	3	2	2	30	7		\											
-11 -12	44.82	1.00	11.00		礫混じり	灰褐	中		礫間は粒径不均一な砂で充填され でなる	$\frac{1}{2}$		11.15				23														-
	44.37	0.45	11.45	0.0.0.0	細砂 (FS-G) 粘土混じ	褐	ぐら		ている 比較的締まって堆積する 5~40mmの円・亜円礫主体	1		11.45	6	10	7	30	23													
-12					リ砂燥 (GS-C)		L١		100~200mm(コア長 L=30~70mm)の玉石が点在			12.15	28	22_4		50 14	>50									12.00				-
				.0.0.0 0.0.0 0.0.0					礫間は粒径不均一な砂で充填され ている			12.29	50_			50_											3-3			-
-13				0.0.0					粘土分が少量混じる,所どころ多 く混じる			13.15 13.20	5			5	>50					_				13.00				
- 14						暗褐	韭		全体に固結の程度が高く非常に締まっている			14.15	50_			50														
-						140	常に密む		逸水はなく孔壁安定している			14.20	5		\Box	5	>50													01/30
- -15							な		安山岩・流紋岩など火成岩が多い			15.15	50			50	>50	_												-
				0.0.0.0								15.21					-50													
: -16				0.000				l				l	50_			50_						L.								_

TCK11901049602.pdf (16 - 18 m)

2/2 ページ

TCK11901049602.pdf (16 - 18 m)

5 - 40mmの円・亜円弾主体
100 - 200mm(コア長
に30 - 70mm)の玉石が点在
20 (GS-C) 精満 常に表分が少量混じる,所どころ多
く混じる 大混じる がようが少量混じる,所どころ多
く混じる 後来はなく孔壁安定している

安山岩・流紋岩など火成岩が多い